

## 税制上の優遇措置

### 個人様

#### 所得税の控除

横浜国立大学基金へのご寄附は所得控除の対象です。そのうち「**学生修学支援基金**」及び「**研究等支援基金**」に対するご寄附は、確定申告の際に**所得控除**または**税額控除**のいずれかをお選びいただけます。

#### 住民税の控除

お住いの都道府県・市町村によっては、個人住民税の控除が受けられます。詳しくはお住いの都道府県・市町村にお問合せください。

#### 相続税について

遺贈により取得された財産を相続税の申告期限に間に合うよう本学へご寄附をいただいた場合、その寄附金額には相続税が課税されません。

### 法人・団体様

法人税法第37条第3項第2号により、寄附金の全額を損金算入することができます。

## ご寄附特典

ご寄附をいただいた皆様に感謝の気持ちを込めて、様々な特典をご用意しています。

寄附の特典		個人	法人・団体
創基150周年記念限定	創基150周年・開学75周年 記念銘銀 (ご寄附の累計金額) <sup>※1</sup> <small>教育文化ホール YNUミュージアム内にて ご芳名を掲示させていただきます</small>	20万円以上	100万円以上
	オリジナル返礼品	1万円以上	-
高額寄附者銘銀 <sup>※1※2</sup>	銘銀(ゴールド)の掲示	1億円以上	1億円以上
	銘銀(シルバー)の掲示	1,000万円以上	5,000万円以上
	銘銀(グレー)の掲示	100万円以上	1,000万円以上
その他の謝意	記念楯の贈呈 <sup>※1※2</sup>	500万円以上	1,000万円以上
	感謝状の贈呈 <sup>※1</sup>	30万円以上	100万円以上
	御礼状・WEBご芳名録への掲載 <sup>※3</sup>	ご寄附をいただいた全ての皆様	

※1: 原則として一個人または、一法人・団体につき1回までといたします。

※2: 高額寄附者銘銀及び記念楯の贈呈は、本学へのご寄附累計金額が該当金額に達し次第ご案内いたします。

※3: ご芳名の公表を希望されない方につきましては、掲載いたしません。

### 横浜国立大学 卒業生・基金担当

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

TEL : 045-339-4443 / E-mail : ynu.kikin@ynu.ac.jp

横浜国立大学基金

<https://kikin.ynu.jp/>



# YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY FUND

横浜国立大学基金  
2023年度活動報告書



# 横浜国立大学基金は 「学びたい」「挑戦したい」を応援します。

横浜国立大学基金は、大学憲章の基本理念に基づき、世界に貢献する高い志を持った学生や若手研究者の育成のため、皆様からのご寄附をもとに様々な支援事業を行います。その支援は修学支援、研究支援、国際交流支援、共生社会の実現、施設・設備の充実化、課外活動支援など多岐にわたり、時代の移り変わりに応じて必要な事業に活用します。

## 一 横浜国立大学憲章

横浜国立大学は、現実の社会との関わりを重視する「実践性」、新しい試みを意欲的に推進する「先進性」、社会全体に大きく門戸を開く「開放性」、海外との交流を促進する「国際性」を、建学からの歴史の中で培われた精神として掲げ、一人一人の在り方を尊重し合う「多様性」を重んじ、世界の学術研究と教育に重要な地歩を築くべく、努力を重ねることを宣言する。この理念を実現するために以下のことがらを長期の目標として定める。

### 実践性

諸問題の本質を見極め、時代の変化に対応し得る柔軟で創造的な課題解決能力を涵養する。現実の生きた社会に原点を置く学問を志向し、教育と研究の成果をもって社会の福祉と発展に貢献する。

### 先進性

教育、研究、社会貢献において、自由な発想と斬新な取り組みにより、社会の変化に柔軟に対応し、多様な学術知・実践知を活かして、先進的な研究を推進し、人類の知的発展に貢献する。

### 開放性

市民生活から地域、産業界、国、世界にまで至る幅広い視野を持ち、学生と教職員の主体的な社会参画により、教育、研究などすべての面で開かれた大学として社会に貢献する。

### 国際性

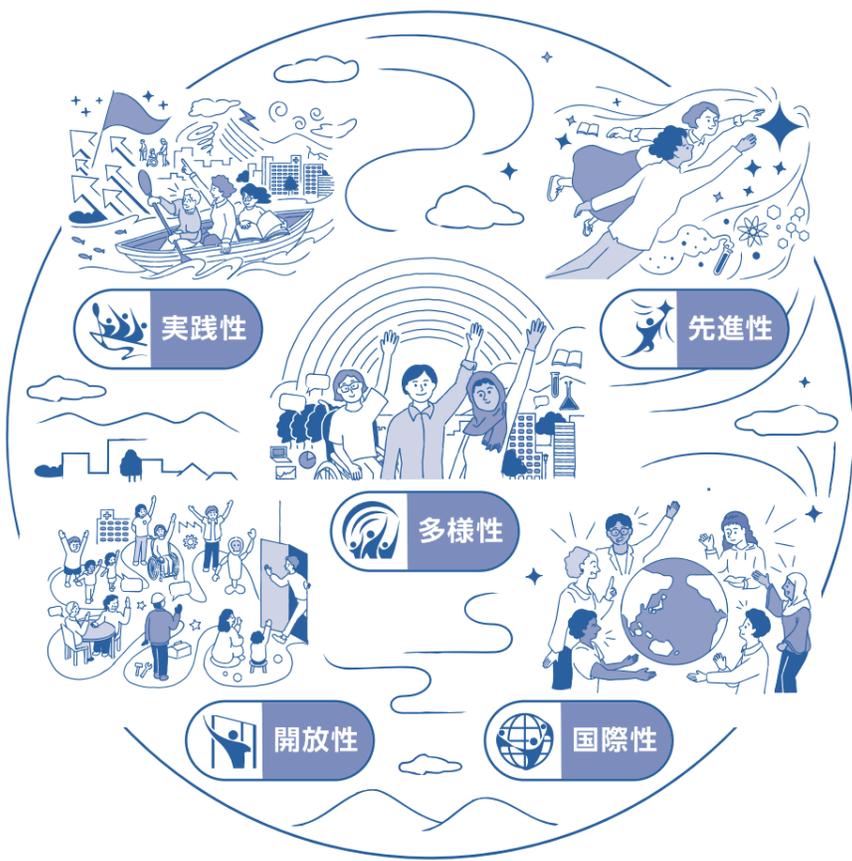
諸外国との交流を促進し、異文化を理解し、世界を舞台に活躍できる人材を育成して、多様なルーツを持つ人々との交流・協働によって、教育と研究を通じ国際社会の発展に貢献する。

### 多様性

人間と学問の多様性を教育・研究の礎として、新しい価値を共創していくために、性別、障がい、国籍などを超えて、多様な学生と教職員が尊重し合い共生・協働していく場を構築し、一人一人が豊かにその力を発揮できるようにする。

以上を旨とする横浜国立大学は、透明性の高い組織と適切な運営のもとで、個性ある大学として豊かな知を育む。さらに、都市空間に在りながら、きわだって緑豊かなキャンパスを有する本学に集うすべての学生と教職員は、恵まれた環境を維持しつつ、心身ともに健康な大学生生活を営むことを目指す。

平成16年4月1日制定／令和5年3月22日改定  
横浜国立大学



# 目指すべき未来へ 歩みを進めるために

皆様には、日頃より横浜国立大学の教育・研究活動にご理解、ご支援をいただき厚く御礼申し上げます。この報告書では、皆様からのご支援の賜物である『横浜国立大学基金』で実施した支援活動をご報告いたしますので、ご一読いただければ幸いです。

今世紀、日本を含む先進諸国は低成長と財政危機、少子高齢化、感染症の拡大、大規模災害、環境問題など多くの困難な課題に直面しています。このような時代であるからこそ、国立大学は、学問の発展と新たな価値の創出、イノベーションの創造に貢献しなければなりません。

本学は、2024年に創基150周年・開学75周年を迎えました。建学以来の歴史の中で育まれてきた「実践性」「先進性」「開放性」「国際性」の理念(大学憲章)の下に、人文系、社会系、理工系などの多様な専門性を有する教員がOne Campusに集い、社会実践を重視した教育研究を行うとともに、各分野で第一線の学術研究成果をあげてきました。そして、この先の未来に向けて、一人一人が豊かにその力を発揮し、本学がさらに発展すべく、「多様性」の精神を追加しました。

今後も本学は、国や地域のイノベーション創出の中心的役割を果たしたいと願っています。そのため、多様な学術知・実践知を動員し、産業、地域、市民等の多様なセクターと国内外を問わず、分野を超えてオープンに連携することで、「新たな社会・経済システムの提案」や「イノベーションの創出・科学技術の発展」に資する「知の統合型大学」として「世界水準の研究大学」を目指します。

横浜国立大学が、皆様と目指すべき素晴らしい未来へともに歩みを進めていくために、これからもご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

*Izuru Umehara*

横浜国立大学 学長 梅原出



## 横浜国立大学基金

横浜国立大学基金は本学の大学憲章に掲げる、実践性、先進性、開放性、国際性、多様性をより高め、教育・研究環境の向上及び社会貢献活動の推進を支援します。お寄せいただいた寄附金は、上述の目的を達成するために広く活用させていただきますが、その用途を大学にお任せいただける方は、こちらの基金にご寄附をお願い申し上げます。

### 実施事業例

若手研究者支援（査読付国際ジャーナル論文投稿支援事業）／  
T.I.M.E. Associationによるダブルディグリーにおける奨学金事業／  
課外活動支援／学部・学科支援／施設・設備の充実化

### 寄附者インタビュー

小網 薫 様 1981年（昭和56年）工学部 応用化学科卒



代官山のライブハウスで行われた  
国大モダンジャズ研究会・OB会にて

#### 小網様の学生時代についてお聞かせください。

私が入学したときの横国の印象は至って中庸でした。悪く言えばまだ何色にも染まってなく、その反面おらかさがあり、神戸から初めて単身生活をした身としては馴染みやすく、とても居心地が良かったです。学生は全国から集まっているのに、横国生にはみな共通した他者に対する思いやりがありました。それは本学の歴史や立地に共感した側面があったからだと思います。

また、第一食堂の右手にサークル団体が使用できるプレハブの部室棟があり、モダンジャズ研究会に所属していた私は、よくその部屋でピアノを弾いていました。OB会で40年ぶりに再会しても、当時と変わらない時間に戻ることができる仲間たちがいることは得難い喜びです。

#### 大学へのメッセージをお願いします。

私の会社が所有する建物では、藤嶋昭先生が発見された光触媒効果を用いた塗料で大規模修繕工事を行っています。このような世界に通用する独創的研究で、社会貢献のできる人材が輩出されることを望みます。

## 学生修学支援基金

学生修学支援基金は経済的な理由により修学に困難がある学生に対し、勉学・研究に集中できるように、授業料・入学料等の全部又は一部免除や奨学金の支援をします。意欲と能力ある学生が、修学をあきらめてしまうことなく希望する教育を受け、研究を続けられますよう、皆様のあたたかいご支援をお願い申し上げます。

### 実施事業例

新入生スタートアップ支援金／YNU大澤奨学金  
YNU竹井准子記念奨学金／八幡ねじ・鈴木建吾奨学金

### 感謝のメッセージ

大学院理工学府／2023年度入学



日々のご支援、誠にありがとうございます。私は化学を専攻しており、将来は人々の生活の質を向上させるような新規材料の開発を実現したいと考えています。そのためにも研究活動に注力し多様な技術・知見を得る必要があるのですが、生活のためには長時間アルバイトも行う必要があり、研究に専念するのは難しい状況でした。

一方、奨学金を頂き始めてからは金銭面の不安が軽減され、研究を含め自分が取り組みたいことに精一杯挑戦できました。その結果、研究結果を得られただけでなく、それらを国内外の学会にて発表する経験もでき、自分の強みや身につけるべき力など多くの気づきを得ることができました。

現在は、それらをもとに学術論文の執筆を目指すなど卒業までの時間を無駄にしないよう日々精進しております。このような充実した学生生活を過ごすことができているのは本奨学金があったからこそであり、ご支援に心より御礼申し上げます。

## 研究等支援基金

研究等支援基金は、学生又は不安定な雇用状態にある研究者（ポスドク等）への支援を行います。研究成果をより広く周知するためには、学術論文の引用数が重要です。論文刊行に要する費用や学会等への参加費の支援など、未来を担う若手研究者の育成にあたたかいご支援をお願い申し上げます。

### 実施事業例

博士学生を対象としたワークショップ

### 実施予定事業

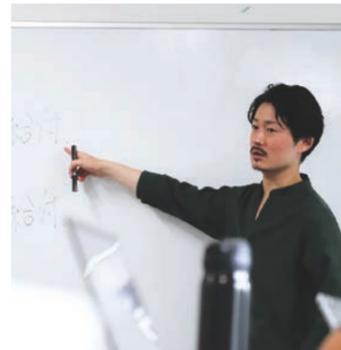
「持続可能なイノベーションを牽引する  
インクルーシブ・リーダーシップ養成プロジェクト」  
(YNU-SPRING 事業) 学生への研究費補助

## 研究者インタビュー

茂住 政一郎 国際社会科学研究院 准教授

### 先生の研究テーマについて教えてください。

私が専門とする「財政社会学」は、一国財政の歴史的特質とその国が直面する財政、社会、政治、経済的な問題がどのように形成されたか、その過程を財政と経済、社会、政治、およびその国で生きる人々の生活や社会、通俗的な価値観の歴史的な相互影響に着目しながら分析する研究手法です。現在はアメリカを対象とした研究を行っています。その成果を、もう一つの私の専門である「財政学」の提供する理論や財政制度を評価する際の基準を使って実際の政策論議を行う際の科学的な基礎づけの材料として活用しています。



### 基金による支援事業を活用した研究活動及び成果について教えてください。

査読付国際ジャーナル論文投稿支援事業を活用し、2022年に刊行された論文 ("Tax Expenditures and the Tax Reform Act of 1969 in the United States," Social Science History, 46 (1) (2022), 93-118) のオープンアクセス化の一部補助を受けました。この論文で、第32回(2023年)租税資料館賞(論文の部)を受賞することができました。

### 寄附者の皆様へ感謝のメッセージをお願いします。

国立大学の法人化以降、全国の国立大学の財政が逼迫する中であって、教員が充実した研究・教育活動を行う上で、このような寄附金の重要性が高まっています。その一部で運営される支援事業を活用することで、本学の社会科学系の教員が国際的な研究活動を行っていることをアピールできました。「国立」大学が寄附に依存する状況が健全だと私は考えませんが、特により若い所属教員の研究活動や成果発表を活性化する上で、寄附金の位置付けは今後一層重要になっていくと強く感じました。今後も引き続きご支援いただけますようお願い申し上げます。



## 国際交流基金

国際交流基金は、留学生への支援、国際交流の推進、国際的視点を持って活躍できる人材の育成支援等を行います。世界を舞台に活躍できるコミュニケーション能力を持ち、異文化を理解する人材を育成するとともに、留学生・研究者の受け入れ・派遣を促進し、教育と研究を通じた諸外国との交流の拡大へのあたたかいご支援をお願い申し上げます。

### 実施事業例

私費外国人留学生奨学金 / 国際会議等出席・海外調査等奨励金 /

交換留学派遣生奨学金 / ショートビジット奨学金 /

海外留学支援制度(協定派遣・協定受入)採択プログラムに対する経費支援 /

外国人研究者等招へい事業

## 感謝のメッセージ

教育学部 / 2022年度入学



この度は、奨学金をご支援いただきありがとうございました。春季語学研修に参加したことで、日本とは異なる文化や歴史、人、モノに触れることで、様々な面で大きく成長することができました。この経験は、日本で過ごしているだけでは決して気付くことのできない、海外へ飛び出したからこそ得られた貴重な体験となりました。

この研修を通じて、苦手としていたスピーキングに挑戦しようと思えるようになり、様々な国から来た人との関わりや現地での生活を通して、日本との違いを感じ、それぞれの違いを受け入れていこうという姿勢の大切さを知りました。また、現地の授業では、大学の授業で教わった教育方法が自然に組み込まれており、学ぶことが大いにありました。

今後は、語学研修で高めたモチベーションを持続させ、将来に向けて役立てていこうと思います。本当にありがとうございました。



# 【 2023年度 ご寄附の受入実績 】

2023年度の  
横浜国立大学基金  
へのご寄附総額は、

# 1,753件

# 165,405,318円

に達しました。



横浜国立大学基金の活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。  
皆様からのご寄附は、大学の発展のために大切に活用させていただきます。

## 収支報告

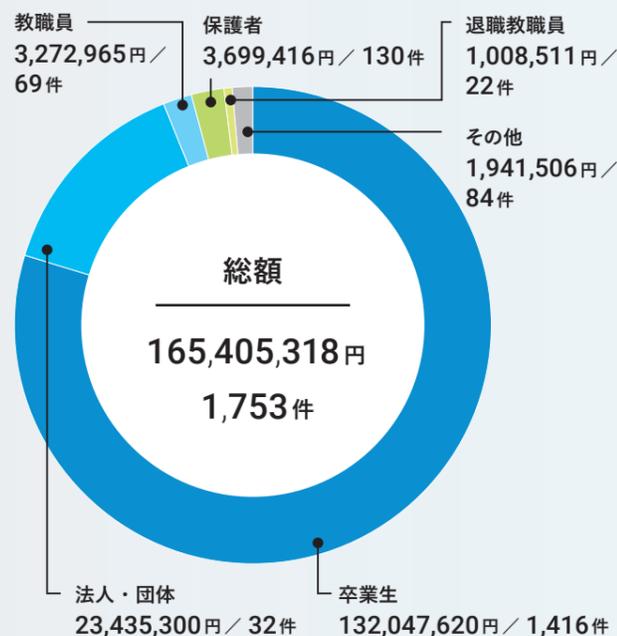
収入計 **165,405,318円**

支出計 **76,080,471円**

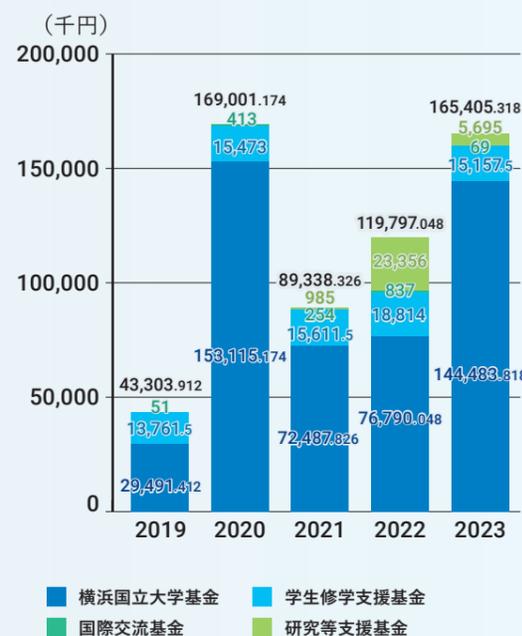
内 訳	金額
横浜国立大学基金	144,483,818 円
学生修学支援基金	15,157,500 円
研究等支援基金	5,695,000 円
国際交流基金	69,000 円

内 訳	金額
横浜国立大学基金	37,864,436 円
学生修学支援基金	24,874,200 円
研究等支援基金	1,247,500 円
国際交流基金	12,094,335 円

## 寄附受入実績



## ご寄附受入額の推移



※創基150周年・開学75周年記念募金事業へのご寄附は横浜国立大学基金に含めて集計しております。

# 【 2023年度 支援事業一覧 】

## 横浜国立大学基金

支援事業名称	主な使途	執行額
全学共通事業	ウクライナ支援、ダブルディグリー奨学金、緊急学生支援、基金運営費など	19,873,453 円
	OA論文投稿料支援、ROUTE支援、ROSEプログラム支援	12,586,247 円
	アメフト部、ヨット部、テニス部等、学生課外活動の支援	4,096,176 円
	周年記念事業(周年記念特設WEBサイトなど)	1,308,560 円

## 学生修学支援基金

支援事業名称	主な使途	執行額
新入生スタートアップ支援金	奨学金給付	2,400,000 円
YNU大澤奨学金	奨学金給付	12,000,000 円
YNU竹井准子記念奨学金	奨学金給付	5,674,200 円
八幡ねじ・鈴木建吾奨学金	奨学金給付	4,800,000 円

## 研究等支援基金

支援事業名称	主な使途	執行額
ワークショップ開催	博士学生を対象とし、自ら研究を推進・発展させていくスキル習得のためのワークショップ	1,247,500 円

## 国際交流基金※

支援事業名称	主な使途	執行額
研究者招へい事業	外国人研究者等招へい	1,668,610 円
国際学術交流奨励事業	私費外国人留学生奨学金、交換留学派遣生奨学金、国際会議等出席・海外調査研究等奨学金	6,550,000 円
国際交流推進事業	海外留学支援制度(協定校への派遣・受入)、アカデミックキャリア支援グローバル大学院プログラム奨学金	3,525,725 円
Y60奨学金事業	ショートビジット奨学金	350,000 円

※国際交流基金は運用益によって支援事業を実施しています

# TOPICS

横浜国立大学 創基150周年・開学75周年記念  
募金事業を実施しています！

本学は、明治7年（1874）に神奈川県内に設置された小学校教員養成所を起源とし、大正9年（1920）に設置された横浜高等工業学校、大正12年（1923）に設置された横浜高等商業学校とともに、昭和24年（1949）に新制国立大学「横浜国立大学」として開学しました。その後、昭和54年（1979）には、点在していた学部が常盤台地区に移転し、One Campusとして今日に至っております。

令和6年（2024）、創基150周年、開学75周年を迎えるとともに、理工学部は令和2年（2020）にすでに100周年を迎え、経済学部・経営学部は令和5年（2023）に100周年、教育学部も令和6年（2024）に150周年を迎えることを記念し、「横浜国立大学 創基150周年・開学75周年基金」を設立しました。

## 事業概要

募集期間	2023年4月1日～2028年3月31日
目標額	総額5億円
記念事業	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 横浜国立大学 創基150周年・開学75周年記念事業 (YNU新湘南共創キャンパスの創設・台風科学技術研究センター支援・学生支援)</li><li>2. 教育学部創基150周年記念事業</li><li>3. 社会科学系（経済・経営・法律）創立100周年記念事業</li></ol>
募金額	個人：1口1万円 法人・団体：1口10万円 ※以上の金額にてご寄附のお願いをさせていただいておりますが、金額に関わらず、ありがたくご寄附を頂戴いたします。
ご寄附の方法	横浜国立大学創基150周年・開学75周年基金 特設WEBサイトよりご寄附のお申込ができます。 



## 2023年度のご寄附実績

1. 横浜国立大学 創基150周年・開学75周年記念事業	1,059件	62,340,368円
2. 教育学部創基150周年記念事業	99件	3,566,666円
3. 社会科学系（経済・経営・法律）創立100周年記念事業	174件	17,525,666円

合計 1,332件 83,432,700円

皆様からの多大なるご支援に厚く御礼申し上げます。  
目標達成まで、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう  
何卒よろしくお願い申し上げます。

# ご寄附の申込方法

ご寄附の  
お申込は  
こちらから



大学基金WEBサイトより、クレジットカード  
決済、専用払込用紙による金融機関窓口で  
の振り込み、銀行振込（ATM・ネットバンキ  
ング）によるご寄附のお申込をいただけます。  
画面右上、オレンジ色の『寄附する』ボタ  
ンをクリックし、ご注意事項をご確認の上、必  
要事項のご入力をお願いいたします。

こちらをクリックしてお手続きを進めてください



## ご寄附の払い込み方法

 クレジットカード



継続的なご寄附（毎月・年2回・年1回の自動引  
き落とし）もお申込いただけます。

※12月16日以降にお申込みいただいたクレジット  
カードによるご寄附の領収書は、翌年の日付で  
発行され、寄附金控除も翌年の対象となります  
のでご注意ください。

 金融機関窓口、ATM、  
ネットバンキング

専用の払込取扱票に必要な事項をご記入いた  
だき、郵便局または横浜銀行・三菱UFJ銀行の窓  
口・ATMでお振り込みください。ネットバンキ  
ングからのお振り込みにつきましては、大学基金  
WEBサイトよりお申し込み手続き後、自動送信  
されるメールに記載の指定口座（ゆうちょ銀行、  
横浜銀行、三菱UFJ銀行のいずれか）にお振り  
込みください。

## 遺贈・相続によるご寄附

大学基金では、遺贈、相続によるご寄附をお申込みいただけます。遺贈（いぞう）とは、遺言書によ  
り特定の個人や団体等にご自身の土地、建物等の不動産や株式等の有価証券などの財産を遺すことを  
いいます。

「残った財産を活用して社会への恩返しをしたい」「未来を担う次世代の人たちの為に役立ちたい」

皆様の大切な想いを、これからの世界を担う教育研究活動を通して未来へとつなぎます。

遺言書の作成を通じて、ご自身の意志・想いを確実に反映させることができます。さらに、横浜国立  
大学に財産を遺贈していただいた場合、当該遺贈財産は相続税の非課税資産となり、相続税を軽減す  
ることができます。また、一定額以上の遺贈をいただいた場合、ご相談の上、お名前などの冠をつけ  
た奨学金制度などを設置することも可能です。

本学と協定を結んでいる  
銀行・信託銀行

三井住友信託銀行／三菱UFJ信託銀行／りそな銀行